

## 屋久島生態系モニタリング

### 屋久島西部地域における天然林の更新動態調査（平成 21 年度）

**II 自動撮影カメラ調査結果** ※[プロット]状況はNo.220に掲載。  
 [T1]標高 200m マテバシイ優占照葉樹林。ヤクシカやヤクシマザルが多く利用。前回(平成 19 年度)はアカネズミが 1 月に多く見られたが、今回はほとんど確認できず。ノネコやタヌキも写っていたため、生態系の攪乱を危惧。[T2]標高 400m イソノキ優占照葉樹林。12 月にタヌキを確認。前回は秋から冬へと季節が進むにつれこの森林を利用する動物の頻度が減少する傾向。今回も冬の間はこのプロット周辺の森林を利用していないと推測。[T3上]標高 560m ヤクタネゴウ優占の天然林。サクラツツジをターゲットにしており、ヤクシカの萌芽枝摂食を確認。またカラスバトを確認。[T3下①]標高 560m ヤクタネゴウ天然林。前回アカネズミは少なかったが、今回は多く確認。このことは、冬はアカネズミの食する土壌動物や昆虫類が少なく、代わりにヤクタネゴウの種やブナ科植物の堅果を食べるためにこの周辺を利用していると考えられる。[T3下②]標高 560m ヤクタネゴウ天然林。直射日光のためうまく撮影できない期間あり。12 月には多くのヤクシマザルを確認。他にヤクシカも確認。[T3下③]標高 560m ヤクタネゴウ天然林。特に鳥類を多く確認。季節が春に移るとともに、主にシロハラの出現増。反面、ヤクシマザルの出現は 12 月に最多、2 月・3 月には見られず。[T4]標高 600m ヤクタネゴウ天然林。アカネズミを多く確認。またノネコが確認されたが、標高 200m でも同じ模様ノネコを確認。[T5]標高 250m 照葉樹天然林。設置期間は短かったが、ヤクシカやヤクシマザルを確認。ウバメガシの萌芽枝をターゲットにしており、ヤクシカの摂食を確認。[A1]標高 450m ヤクタネゴウ天然林。アカネズミとシロハラを特に多く確認。ヤクシマザルは、前回は秋から冬にかけて減少する傾向、今回冬から春に向かって減少している傾向が見られた。

9 月 28 日に第 1 回屋久島世界遺産地域科学委員会が屋久島環境文化村センターで開かれました。  
 科学委員会は世界遺産に登録された屋久島の自然環境を把握し、科学的なデータに基づいた順応的管理に必要な助言を得るため、学識経験者等による委員会として設定されています。  
 会議に先立ち、荒木耕治屋久島町長から入島税やガイド登録制度など、地元自治体としても自然遺産地域の適

## 第 1 回科学委員会を開催 屋久島世界自然遺産管理計画などを議論

正な保全や観光のあり方について検討を進めている旨、あいさつがありました。  
 今回の委員会では、①屋久島世界遺産地域管理計画の実施状況②平成 24 年度モニタリング結果および平成 25 年度のモニタリング調査③ヤクシカ・ワーキンググループ④山岳部の利用対策を主な議題となっています。  
 モニタリングについては、タヌキなどの外来種や野猫が生態系に与える影響などの対策についても重要との

9 月 27 日に屋久島世界遺産地域科学委員会の専門部会であるヤクシカ・ワーキンググループの会議が屋久島環境文化村センターで開か

### ヤクシカ・ワーキンググループ会議を開催



意見を交わす委員の皆さん

意見が出されました。  
 山岳部の利用対策については、科学的見地に基づき入山者数が生態系に与える影響を示す必要があることや観光産業などの経済行為や地域振興など社会科学的な調査、分析も必要ではないかとの意見が出されました。  
 また、屋久島世界遺産地域管理計画やこれに基づく関係機関の取組を広く地域住民の皆様方に知っていただき、交流を深めることが重要であるとの意見も出され、今後の検討課題となりました。

個人数管理については、正確な生息密度を把握するためにも継続したデータ収集が重要であること、ヤクシカの DNA 検定により行動範囲が明らかになりつつあり、DNA 検定と糞粒調査を同時に実施することにより、さらに効果的な生息密度の把握が可能となることなど、多くの意見が出されました。また、個人数管理と生態系

会議では、環境省、林野庁、鹿児島県、屋久島町の取組状況が報告されたあと、地域別保護管理対策について、①ヤクシカの個人数管理の現状と課題②屋久島の捕獲シミュレーション③生態系管理の目標及びモニタリング手法などをテーマに検討が進められました。  
 ヤクシカの生息密度については、県道への出没は少なくなつたものの、平成 24 年度の推定個体数は 18 千頭余と依然として高い水準で推移しています。

### 屋久島の植物



クズ (マメ科)

全国に分布する大形の花性多年草。茎の大きさは直径 10 ㎝を越えるものもある。葉は 3 枚の小葉からなる複葉。花は長さ 2 ㎝ほどの赤紫色で房状に多数咲く。根からデンプンをとり葛粉をつくる。秋の七草のひとつ。  
 花期 9 ～ 10 月。



ワーキンググループの様子

本年度のヤクシカの捕獲頭数は前年度並みで推移しており、今後の捕獲頭数の増減が生息密度を検証する上でポイントとなることから、事務局では 12 月ごろに捕獲数の中間取りまとめを行うこととしています。



屋久島環境文化研修センターと共催で森林教室  
 14人が白谷雲水峡の自然を満喫

9月23日、屋久島環境文化財団は、屋久島世界自然遺産登録20周年の記念イベントとして「島と生きる屋久島カルチャー」を開き、14人が参加しました。当屋久島森林生態系保全センターも共催。屋久島の森林等について説明を行いながら白谷雲水峡管理棟から太鼓岩までの約2.5kmを散策する「森林散策イベント」を行いました。



記念撮影（白谷雲水峡入口）



太鼓岩の上で！

参加者からは、「子どもたちにもわかりやすい解説が良かった。自然に触れることができよかった。太鼓岩からの絶景が印象に残った。屋久島の大きさを改めて感じました。また、参加したいです」などの意見がありました。今回のイベントは、9月1日～30日の間、白谷雲水峡のレクリエーションの森に自生している樹木等の愛称を募集している期間で参加者は愛称を応募箱に投函していました。屋久島の森林に触れ、20周年記念にふさわしい森林教室となりました。

屋久島中央中へ森林教室  
 森林と人との関わりなど説明

9月19日、屋久島町立中央中学校の依頼を受け中学2年生57人を対象に森林教室を行いました。

これは、屋久島の教育的資源である「世界自然遺産」を素材として屋久島の自然や歴史、文化を学び、その価値を理解し、継承や保護に努めることを目的とした「屋久島の森林に関する学習」の一環。

当日、講師として中学校を訪れた猪島生態系管理指導官は、  
 ①屋久島の森林や生態系の現状  
 ②屋久島の国有林の歴史と現状  
 ③屋久島の森林と人との関わり  
 についてプロジェクトを使って説明。生徒らは真剣に耳を傾けていました。



説明する猪島生態系管理指導官



熱心に聴講する中央中生徒

ボランティア活動  
 10人が保護柵除去に汗

9月28日、九州各地に勤務する株式会社伊藤園の職員10人が鍋山国有林110林班において環境ボランティア活動を行いました。当箇所は屋久島・種子島のみで自生するヤクタンゴヨウが台風やマツノザイセンチュウの被害等のため減少し絶滅危惧種となっていることから、その回復を図ることを目的に平成16年2月設定した見本林と採取林。今回、設定から9年が経過し、ヤクタンゴヨウの枝が成長したため、ヤクシカからの食害を防ぐと設けていたサブリガードの保護柵の除去を行いました。参加者は撤去したサブリガード等の資材を額に汗し林道脇まで運び

出しました。参加者からは、「きつい作業だけど、活動をやった実感がわきました」などの声が聞かれました。



ボランティア活動に参加の皆さん

蜂に注意を！  
 まだまだ活発な活動か！

蜂刺され災害防止対策強化月間も過ぎているところですが、この夏は暑く、小雨であった影響か？10月を迎えるこの季節も普段より多くのスズメバチが飛び交っているように感じます。蜂刺され防止対策に引き続きご注意ください。

特に、有害鳥獣（シカ）の駆除において多く見られます。



埋設したシカに集まるキイロスズメバチ